

内科学入門（青木一孝）

Introduction to Internal Medicine (Kazutaka Aoki)

キーワード

- ① 全身管理医歯学
- ② 内科学
- ③ 内分泌・代謝学
- ④ 腎臓内科学

授業概要

高齢社会である本邦では慢性内科疾患を複数もつ人々が増加している。そのために医療の需要が増すのみでなく、その内容も従来と異なる視点が必要である。特に高齢者に多い心血管系疾患、脳血管障害、腎疾患、糖尿病、癌などについては、二次予防、生活管理などへの指導が重要となっている。これら高齢者の診断、治療、医療安全を図るためには医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士など多くのスタッフの協力、すなわちチーム医療が重要であり、これを円滑にすることを目的として様々な内科疾患の病態生理の基礎を学ぶ。

授業科目の学修目標

内科学は、患者との医療面接と患者の観察から始まり、それを体系的に把握して分析し、その病態生理および病因を明らかにし、的確な診断と治療を行う学問である。内科学入門では内科学の基本を理解し、高い倫理性と医療安全の下、内科合併症を有する患者の診断と治療ができることを学修目標とする。

授業計画

- ① 症候論と内科診断学の基本
・主要症候 3コマ 青木一孝
・鑑別診断のための内科診断学 3コマ 青木一孝 橋本達夫
- ② 内科治療学の基本と医療倫理および医療安全 6コマ 青木一孝 橋本達夫
- ③ 内科学各論（循環器・呼吸器・消化器・腎・血液・膠原病・神経・内分泌代謝）18コマ 青木 橋本

教科書および参考書

内科学 第12版 矢崎義雄 総編集 朝倉書店

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

内科学入門では授業項目と内科学領域で発表された主要英文原著論文を熟読し、理解することが求められる。
内科診療にあたっては正確な知識、技能のみでなく高い倫理性と医療安全の確保を求める。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 主要症候と、その原因疾患を理解し内科診断学の基本を説明できる。
- ② 医療倫理と医療安全確保を理解し実践することができる。
- ③ 的確な診断および治療計画により、複数の慢性内科疾患を有する患者の診療を行うことができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。計40%
- ・レポートは、履修に用いた主要英文原著論文の要約を提出する。計30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。計30%

理想的な達成レベルの目安

内科学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。医療倫理と医療安全は100%を求める。